

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170503189), 法人名 (社会福祉法人愛全会), 事業所名 (アビターレグループホーム ヴェネチア館), 所在地 (札幌市豊平区平岸2条2丁目1-1), 自己評価作成日 (令和5年5月20日), 評価結果市町村受理日 (令和5年7月14日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503189-00&ServiceCd=320)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者総合福祉施設の5階に併設されている3ユニットのグループホームです。閑静な住宅街に立地しており、交通の利便性にも恵まれております。5階最上階からは、藻岩山・手稲山・札幌の街並みを一望でき、美しい夜景や花火大会の鑑賞など四季を感じられることも特徴の一つです。共有面積が広く設けられているので、歩行運動や散歩を楽しんで頂く事ができます。総合福祉施設の機能を利用してカラオケ、喫茶コーナーの利用など、生活の幅を広げて楽しんで頂いております。町内会の一員として地域の商業施設の利用、お祭りやイベントで積極的交流し、情報を発信できるグループホームを目指し、運営推進会議への参加や隣接するアネックスで開催のオレンジカフェ、地域食堂等をご利用頂き情報交換に努めています。職員は入居者様の尊厳を支え、生き甲斐のある時間を送って頂ける様に、日々事業所内外の研修に参加し、自己とチームの研鑽に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年6月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居の特典として、最上階の眺望が挙げられる。四季を感じる山並みの自然や華やいだ街並みの夜景、花火大会の鑑賞など、交通の便が良い市街地に在りながら静かに暮らせる事業所は終の棲家として恵まれた環境にある。コロナ以前には総合福祉施設として併設のデイサービスの機能である、喫茶コーナーやカラオケルームを活用し利用者のレクリエーションの幅に広がりを見せている。母体である医療機関や系列の介護施設、介護ホーム事業室との連携で医療面での迅速な対応やリハビリを取り入れるために多職者と情報を共有し連携を図れるなど協力体制が整っていることも優れている点として挙げられる。感染症対策を講じて、併設デイのバスを借用し、桜見物、紅葉狩のドライブを実現させ、室内レクも季節行事の充実は勿論、3ユニット合同開催の夏祭りは特別メニューと職員手作りの神輿で気分を盛り上げ、ベランダに簡易のゴルフとボーリングを楽しむ場を設けるなど、職員は長期に渡る自粛生活に五感を刺激しストレスを感じさせない工夫でコロナ禍での暮らしを支えている。

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。 Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows include items 56 through 62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族やご入居者様のご希望を聞きながら、その人それぞれがその人らしく生活ができるようケアプランを作成し、職員全体で共有し実践しています。	事業所共通の法人理念を主軸に、ユニットごとに目標を作成し要所に掲示している。新人研修、定期会議、面談等で意識づけやケアの振り返りを行い、サービスの実践に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、なかなか地域活動への参加ができていませんでしたが、今年度は少しずつ機会を作って行きたいと考えております。	アビタール全体として地域と良好な関係が継続されているが、今年度は活動行事が休止状態となっている。地域情報は施設長から得られ、運営推進会議録で事業所の内情を報告している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でこの数年はボランティアや、地域の中高生の職業体験、運営推進会議も行う事ができずにおりました。今年度、まずは運営推進会議の開催を実施しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催できておりましたが、この5月から、再開しております。	運営推進会議は書面会議で年6回開催している。事業所運営報告と共に法人事業室からの情報も議事録にまとめ、構成メンバーと全家族に配布している。意見や要望は電話で収集しサービスに反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の連絡会は実施されておませんが、豊平区の連絡会議はFAXにて情報の共有を行っております。	行政とは法人事業室が中心となり関わっているが、案件によっては管理者が対応し協力関係を築いている。情報の共有は電話、メール、FAXを活用している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が中心となり、カンファレンス等で虐待の定義について理解を深めています。	法人共通の指針を定め、合同の適正化委員会を年4回開催し、参加者による伝達会議で全職員に周知を図っている。定期研修内での事例検討や毎月、利用者に対し身体拘束チェックリストを作成し、適切なケアを模索するなど、拘束をしない支援に務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会が中心となり、高齢者虐待防止の研修会を行い、全スタッフで防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム教育委員会が中心となり、各種研修を行っております。コロナ禍だったこともあり、youtubeに研修動画をアップロードするなどの工夫をし、多くの職員が参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って、契約内容・重要事項説明書などを詳しく説明し、質問・疑問にも丁寧に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、ご家族様アンケートを実施し、意見要望を取り入れ、ケアに反映させています。	対面自粛が長期化し、家族との繋がりも、年1回のアンケートを始め、電話、メール、LINE、紙面での便り、個別の写真送付など、多面的な形で発信し、その都度、要望や意向を汲み取り信頼関係を築いている。この3月から条件付き面会が可能になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中やユニットカンファレンスで、職員の要望や意見を聞き取り、毎月管理者会議で意見交換を行っています。人事考課面談の際には、直接意見を聞くなどして、働きやすい環境作りに務めております。	職員は日々の申し送り時やカンファレンスの機会にケアの提案や業務の見直しについて話し合い、管理者は合同会議で検討を図っている。事業室役職者とは常に情報を共有し、年2回の三者面談では、職員の自己目標の達成度の確認や労働に関する要望等を汲み取り、モチベーションの向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課面談に於いて、個々の目標や得意不得意の確認をしながら、環境や条件の整備を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム教育委員会で作成した職員育成マニュアルを使用したプログラムを組んでの指導や、今年度は管理者を対象とし管理者研修が開始となり、育成には力をいれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍だった為、FAXにて札幌市や豊平区の情報交換を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や面談で、ご本人様やご家族に要望や希望を聞き、安心して入居していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事やお困りの事、要望など細かな情報の聞き取りを行い、対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを丁寧に聞き取り、且つご本人の身体状況や生活状況を鑑みた内容を初期プランに反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役がご本人である事を職員全体が常に意識し、その方のペースに合わせてながら、できるだけ自立した生活ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いに寄り添いながら、日々の暮らしの様子をこまめに電話連絡やLINEを活用して行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、ご友人との面会や電話の支援やLINE電話の活用で、より良い関係性が継続できるよう支援しています。	3月から面会が可能になったが、対面交流が厳しい時期は、電話やLINEの動画電話を活用し、墓参の様子を家族から送信されるなど関係継続を図っている。職員は会話から昔話を紐解き、動画や写真で郷里の行事や名所を辿り、懐かしさを共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中でのレクリエーションの実施や趣味活動に於いて、自立されている方もそうでない方も、関わりあえるよう職員が中に入り、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居された方のご家族に連絡を入れたり、各種関係機関への紹介を行う等して、関係を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去や現在の生活状況を踏まえてアセスメントを行い、希望・意向の把握をしています。困難な場合は表情や言動を観察し、思いを引き出すよう努めています。	生活歴や職歴、家族の情報を手掛かりにアセスメントを行っている。職員は利用者の顔色、行動、言動、表情を見極め、1対1の関わりでの会話を重視し真意を推し量り、職員間で情報を共有しながら意向に沿った支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関から入居前の生活歴や生活環境、サービス利用の経過等をお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の生活状況や様子を細かくアセスメントし、支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファレンスで、モニタリングや評価を行い、ご本人・ご家族の要望や、医師・看護師の意見を聞き、介護計画を立てています。	全職員でモニタリングで知れた情報を基に話し合い、身体機能向上を第一に捉えた個別のプランを立案している。医療関係者は元より、個別リハビリの必要性を考慮して、次年度からは各々職種者とも連携を図る予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行い、日々の気づきは申し送りやカンファレンスで情報共有し、ケアプランの見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、内科・歯科・皮膚科などの訪問診察を利用し、訪問看護や訪問リハとの連携を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で実施できませんでしたが、今年度は徐々に再開したいと考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿った選択をして頂き、緊急時やその時の病状に合わせた医療機関との連携の支援を行っています。	現在全員が希望する内科医の定期往診を受けている。専門科医は家族の協力の下に通院対応となっている。法人事業室には看護師が配置され、訪問看護師と共に的確な助言が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護あいぜんとの密接な関係性を築き、週に1度の健康相談やその他24時間体制の看護相談も実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	GH事業室の相談員、看護師との連携によって、入院先との密な情報交換を行い、関係を築いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、早い段階からご家族を含めて話し合いを行っており、必要に応じて医師や看護師の同席のもと、話し合いを行うようにしています。	重度化や看取りに関する体制が整備され、指針に看取りの考え方を明示し説明を行い同意を得ている。状態の変化に応じて、医師と綿密に連携を図り、看護師、家族、職員と共に納得のいく支援を共有している。定期的にターミナルケアの指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、GH教育委員会や安全管理委員会でマニュアル作成や研修を行い、職員参加を必須としています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日の防火点検、年2回の防災訓練、風水害時の避難方法の研修を行い、緊急連絡網の整備もしております。	総括本部の元消防署員の指導の下に年2回、夜間想定火災避難訓練を実施し、地震を想定したシミュレーションは併設事業所合同で年1度行っている。防火点検は毎日行い、備蓄品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の尊厳を守り、配慮のある声かけやケアを行っています。	職員は接遇や身体拘束に関わる研修で、利用者への声掛けやケアサービス時での対応方法を学んでいる。その中で、個人の尊厳やプライバシー保護が守られるよう実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような声掛けや質問方法を実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースに合わせ、体調や希望に寄り添う支援が行えるよう、職員間の情報交換をこまめに行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを把握しながら、清潔な身だしなみやおしゃれを楽しめるよう、支援します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、後片付けなど、その方の得意な事を活かせる様、職員と一緒に行っていただけるよう支援します。	管理栄養士作成のバランスの取れたメニューを基に、職員が調理している。月1度の行事食では幕の内弁当、スイーツも選択できるなど、イベント食も含めて提供される食事に満足度が高まっている。時にはピザを出前し好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立メニューの提供と、月に一度の栄養指導、訪問診察・訪問看護との連携で個々の体調を把握した支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けや支援、訪問歯科の利用による口腔内の清潔保持を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用した個々の排泄サイクルの把握と、支援により、トイレで排泄していただけるよう努めています。	立位が保てる利用者が殆どなので、日中は尊厳に配慮し、さりげない声掛けでトイレでの排泄を支援している。夜間のみベッド上での交換や布下着、衛生用品の使用は状況を見極め、清潔を保てるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量の把握と調整、飲食物の工夫や運動への参加など、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能かつ、午前・午後などの希望も取り入れながら、ご本人のタイミングで入浴していただけるよう支援しています。	毎日入浴できる体制を整え、週2回を基本に支援し、状態によりシャワー浴や清拭も取り入れている。洗身はできないことを手助けし、湯加減や入浴剤の選択など要望に応え、癒しの時間では会話も弾み介護支援の情報源となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣を把握し、安心して休める環境を提供しています。また、夜間良眠できるよう、日中の体操やレクリエーションを工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導による、医師・薬剤師の指導を受けたスタッフが薬剤情報を理解し、安全な提供を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、日々の生活の中でのお手伝いに参加していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で実施できておらず、今年度から徐々に再開したいと考えております。	コロナ感染症防止のために外出は車窓からの桜見物、紅葉狩程度に制限される中で、職員は気分転換を図るために、季節行事はもとより、3ユニット合同の夏祭りをベランダで開催している。メニューに拘り、職員手作りの神輿で盛り上げ、ゴルフやボーリングを楽しんでもらうなど、室内レクを工夫し取り組んでいる。	コロナ感染症対策が緩和されたことを機に、次年度は家族を伴う外出行事や個別で家族水入らずの外泊や外出、外食などの交流の機会を多く持ちたい意向を示しているのを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人の預り金の保管はしておらず、必要があれば、用意されている立替金の中から使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の電話は自由に使用できます。電話の取次ぎや郵便の投函の支援も行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングで、ゆったりと心地よく過ごしていただけるよう、環境の整備や職員の言動・行動にも気を付けています。季節の飾りはレクリエーションとして、職員と一緒に作成したり、飾りつけを行ったり出来る様工夫しています。	ゆとり有る空間に落ち着いた色調の壁や装飾品が飾られ、光彩や温湿度にも配慮し、食事中には音楽を流すなど快適な環境を整えている。アイランドキッチンを中心に家事作業も行い易く、利用者は様々なレク活動を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アビターレGHの特色である広さを最大限に利用して頂き、リビング・食卓席・サブリビング・廊下など、思い思いの場所で過ごしていただけるよう、整備しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談し、使い慣れた家具やなじみの物をご持参頂くなどして、心地良い環境作りを支援しています。	居室入り口にはメモリアルボックス、室内にはクローゼットと洗面台を設置している。暮らしに欠かせない調度品や衣類、家族写真、愛読書、裁縫道具など趣味の品も持ち込み、安らげる居室を作り上げている。状態変化時には家具の配置を変えて安全を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるよう、カレンダーや日めくりの配置、時計の設置、目印や案内の設置を工夫しています。		